

令和6年度 常葉大学教育学部附属橋小学校 学校評価書

教育目標 未来を切り拓く「生きる力」を育てる

本校の学校評価の項目

1 信条 2 重点目標に関すること 3 教育課程に関すること 4 教育環境・危機管理に関すること 5 本年度の重点項目について

5：大変よくできた 4：よくできた 3：できた 2：あまりできなかった 1：できなかった

評価項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員意見	来年度の改善策
<p>信条</p> <p>【いつでも どこでも 三方よし（生徒指導部）】 「自分よし 相手よし みんなよし」を信条として活動する子を育てている。</p> <p>【本年度の取組】 生徒指導の反省を定期的に教員が行い、職員には職打ちやメール送信で周知した。また、児童には朝礼や担任からの話を通して高い意識をもたせることができた。宿泊行事や社会科見学など外部の活動においても、担当の方に気持ちのよいあいさつをしたり、施設を丁寧に使ったりするなど自分だけでなく、周りのことを考えて活動できた。</p>	4	4	<p>【子供】 子供たちが明るく素直で、良い教育が浸透していると感じる。「三方よし」がわかりやすく、子供と教職員で共有されている。子供たちが笑顔で安心して学んでいる。ハードだけでなく心の面でも壁がない。</p> <p>【授業】 低学年でも自分の言葉で上手に伝えられている。感情を言語化できることは大切だと思う。どの学年の子供たちも授業中の集中力が高い。タブレット活用がすっかり定着し、自然に使いこなしている。ネットから得た情報を自分のスキルアップに生かしている。ICTとリアルとのバランスがいい。子供たち個々の作品が個性的でクリエイティブが高い。それを引き出す展示の工夫もよい。基礎基本の徹底が図られている。保護者もそれを期待している。子供の表現が重視されている。目と手と口が動くと頭が動く（思考する）。個別と協働は、個が強くなれば周りにつながりたくなる。協働から個に戻ってくる時に学びが深まっていく。</p> <p>【教師】 一人ひとりの子供をよく見ており、共感的な言葉が目立つ。先生が子供の発言に傾聴しているからこそ子供は言いたくなるのだろう。「聴いて、考えて、つなげる」の重点は適切である。グランドデザインで学校の目指す方向性が明確で共有されている。日頃から環境づくりへの様々な配慮がよくなされておきよき整っている。そうした環境に子供たちは感化されているのだろう。</p> <p>【その他】 「三方よし」の中でも、まずは「自分よし」が大事である。自分が何者であるかをまず理解すること。R5年度から日課表が変わり、1年生から毎日6時間になったが、負担感を軽減するための様々な工夫がなされ子供たちも適応できていることがわかった。主体性を育てるために「させる」活動から「する」活動へと積極的に転換を図ってきた。</p>	<p>『「三方よし」って何?』について自分たちで話し合ったり、考えたりする機会をクラス、学年、全校（児童会や朝礼等）で増やす。それらを通して、三方よしについての知識や理解を深め、意識を高め、実行に移せるよう支援する。</p>
<p>重点目標</p> <p>【確かな学力（学習指導部）】 探究（問題解決）型の授業の質を高め、子供の「主体性」を高めることができた。</p> <p>【本年度の取組】 探究型の授業の質を高めるため、各学年の児童の実態に合わせて「聴く力」を高める指導に取り組んだ。友達との意見を正しく理解することで、授業に「つながり」ができた。疑問に対してタブレット等を有効活用したり、友達と協力したりして主体的に学習する力が高まった。</p> <p>【豊かな心（特別活動部）】 子供たちの取り組みを通して主体性を育む。（あいさつ、目礼等）</p> <p>【本年度の取組】 前期の児童会の目標が「自分のきもち 相手のきもち 三方よしの眼でみよう」後期の児童会の目標が「あいさつと感謝で心をつなごう」となっており、子供たちも三方よしとあいさつを大切にしたいと考えていた。そして、自主的にテーマ活動を行っていた。また、クラスごと自主的に輪っ子会に参加し、クラスの団結力を高めようとする動きも例年通り見られた。しかし、全員が気持ちのよいあいさつまではできていないため、少しでもあいさつの質を高めていきたい。</p> <p>【たくましい心身（生活指導部）】 基本的な生活習慣が当たり前できるように各学年に応じた指導をした。</p> <p>【本年度の取組】 基本的な生活習慣について、児童の実態に合わせて指導を行うことができた。低学年はあいさつ、中学生は整理整頓やオープンスペースの使い方、高学年は時間の使い方や言葉遣いについて指導できた。</p>	4	4	<p>「聴く力」の向上が「話す力（表現力）」を高め、結果的に「深める力」の向上につながるということがわかった。来年度は表現力のさらなる向上をねらい、「わかりやすく伝える（論理的に伝える）」という点に重点をおきたい。</p> <p>児童会役員を中心にして児童会活動を行っているが、活動内容が多く、一つのことじく取り組みが足りないため、児童の実態に合わせ精選していく。また、全員が気持ちのよいあいさつができる取り組みを促していきたい。</p> <p>朝礼や学年指導、学級指導等で教員から話したり、学級会の議題に挙げて話し合いをしたりして改善しようとして取り組むことができた。課題は多いため、さらに継続して指導する必要がある。</p>	
<p>教育課程</p> <p>【学年・学級経営（教務）】 学年・学級経営案に基づいた運営により、目指す子供の姿をおおむね達成できた。</p> <p>【本年度の取組】 各学年とも、クラス間や、学年に入る教員と連絡を密にし合い、子供たちに寄り添いながら指導、支援することが出来た。学年目標はクラスに掲示し、朝や帰りの会、道徳の授業などで確認したり、現状の振り返りなどを行っていた。</p> <p>【特色ある教育活動（教務）】 少人数指導と教師の専門性で一人ひとりに寄り添い確かな力をつけることができた。</p> <p>【本年度の取組】 オーケストラ・情報・書写の特色科だけでなく、音楽、理科、社会、図工など多くの教科で教科担任制を取ることができた。授業で発言できただけでなく、ロイロノートで提出された資料からも、子供たちの学力や考え方を知らることができた。</p> <p>【社会に開かれた教育課程（教務）】 教育を開き、多様な教育活動と外部人材との出会いを創出した。</p> <p>【本年度の取組】 常葉大学学生によるスクールサポートスタッフ（現在32名登録）を活用し、教職員の手伝い、子供たちの教育支援を行うことが出来た。また、静岡銀行、モンパルナス（金融教育）静岡シニアクラブ（生活科 昔の遊び）など外部の方の力を借り、子供たちと多様な学習を行うことが出来た。</p>	4	4	<p>教師と児童が、同じ土俵で話し合いを行ったり、児童同士の話し合いを促したりすることで、学年目標やグランドデザインに記されていることについて、達成できるようにしていききたい。</p> <p>個別最適な授業を行えるよう、日ごろから研修を進めていきたい。また、教師主導の授業ではなく、「聴いて、考えて、つなげる子」の育成を目指し、児童同士が話し合い、答えを導き出すように、授業中の声掛けなども工夫をしていきたい。</p> <p>開かれた学校を目指し、さらに多くの学生や地域の方々との交流できるようにしていきたい。そのために、大学の地域貢献センターや、教職支援センターとも連絡を取りあっていた。</p>	
<p>教育環境 危機管理</p> <p>【教育環境（教頭）】 子供たちが安心して生活ができ、学習効果を高めるための教育環境を整えた。</p> <p>【本年度の取組】 教室環境については、月に一回の安全点検等で環境を整えた。また、ICTの活用環境は引き続き活用できる環境を維持できた。オープンスペースの活用も概ねできた。</p> <p>【危機管理（生活指導部）】 防災（地震・風水害）、不審者、スクールバス等の安全対策を徹底した。</p> <p>【本年度の取組】 地震・火災の避難訓練、不審者対応訓練、あぶとれ、下校指導などを行い、児童への安全指導を行うことができた。災害時の対応について、現在再検討中のものがあるため、随時見直ししていく。</p> <p>【学校のDX化（ICT委員会）】 学校のDX化により業務効率とペーパーレス化が進んだ。</p> <p>【本年度の取組】 Googleフォームを用いてアンケートや出欠席の調査に活用し、業務効率の一部につながった。</p>	4	4	<p>4階天井については、引き続きメンテナンスや熱中症対策として断熱材の設置を行っていく。ICT活用については、家庭への持ち帰りははじめるという目に見えるストーリーがあるといいし、それが蓄積につながる。これからは、垂直的な成長（being）に目を向けさせることが大切。幼小の連携は発想を転換し、年長と1年生と管理職中心から子供に関わるすべての関係者が立場をこえて連携することが大切。グランドデザインで示したものと各々の教育活動のめあてとの整合性を重視してほしい。確かな学力が身につけていることの裏付けになるものとは何だろうか。校舎の老朽化は否めないし、印象は悪い。木のめくれ等、子供の心が心配になる部分もある。オープンな教育を展開し、多様な子供を受け入れ、その子の個性や特性を伸ばしてやれるような学校づくりもよい。「三方よし」「生きる力」で止まってしまっていないか。2028年には少子化の大きな波が押し寄せる。10年後に向けて抜本的に見直しをしなければいけない。ASクラブは募集にとって大きなポイントになるはず。共働きの親のニーズに合わせることで、習い事の要素を積極的に取り入れていくことなど変えていきたい。よい教育をしていることが伝わらない原因を分析したい。よい教育と思っていることが実は今の時代に求められていないのかもしれない。学校教育では関係性を大切にしたい。関係の質が行動の質となり、学びの質につながる。</p> <p>来年度は、新たな研究方針で「自ら学び共に追究する子の育成」を目指していく。とくに令和の日本型学校教育という視点から本校の研究と捉えなおし先行研究や先行実践から学ぶ1年とする。</p> <p>「変える・変わる」のモットーを継続し、さらに大胆な学校改革に挑戦する。ASクラブのあり方を再検討し、保護者のニーズに応えていきたい。校内外での教職員の研修機会を積極的に求めていく。</p> <p>ホームページやInstagramの発信は継続して積極的に行う。「小学校で遊ぼう」も継続する。幼稚園との交流を画策していきたいながら園児やその保護者に本校の魅力を伝えていけるようにする。</p>	
<p>本年度の重点項目</p> <p>【校内研修（研修部）】 教員は研究主題「自ら学び共に追究する子の育成」を実現するために学び続けた。</p> <p>【本年度の取組】 研究サブレマ『「そうぞう」する子をめざして』を掲げ3年目。総括の年度として、5つの教科別に研究のまとめを行うとともに、来年度以降の研究構想を練ることができた。</p> <p>【教職員の資質（校長）】 教職員は「変える・変わる」をモットーに学校改善に向けてチーム力を高めた。</p> <p>【本年度の取組】 「グランドデザイン作成」「R7からの夏服をポロシャツに変更」「教育業務支援員、ICT支援員の配置」「校務システム導入」「校内研修の15分パワーアップ講座」等、新たな取組ができたがチーム力向上への波及はこれからの課題である。</p> <p>【児童募集（教頭、広報部会）】 定員充足のための児童募集、広報活動を工夫し実績を上げた。</p> <p>【本年度の取組】 本年度から新しく「小学校であそぼう」を2回実施し、説明会とは別の取り組みを位置づけた。ホームページもリニューアルし、携帯電話でも見やすくなり、Instagramでも発信をしていった。しかし、受験人数につながらなかった。</p>	4	4	<p>来年度は、新たな研究方針で「自ら学び共に追究する子の育成」を目指していく。とくに令和の日本型学校教育という視点から本校の研究と捉えなおし先行研究や先行実践から学ぶ1年とする。</p> <p>「変える・変わる」のモットーを継続し、さらに大胆な学校改革に挑戦する。ASクラブのあり方を再検討し、保護者のニーズに応えていきたい。校内外での教職員の研修機会を積極的に求めていく。</p> <p>ホームページやInstagramの発信は継続して積極的に行う。「小学校で遊ぼう」も継続する。幼稚園との交流を画策していきたいながら園児やその保護者に本校の魅力を伝えていけるようにする。</p>	